

第 35 回考古学研究会東海例会
愛鷹山麓の後期旧石器時代前半期における狩猟活動と植生改変
(パレオアジア文化史学後援)

近年、初期現生人類の出現と拡散の研究では、人為的な植生改変についても議論がおこなわれはじめている。日本列島においても植物珪酸体の研究などから、後期旧石器時代において植生改変が行われていた可能性について指摘されている。本例会では、愛鷹山麓およびその周辺の後期旧石器時代前半期（およそ 38,000～29,000 年前）の考古学の研究成果と植生改変をめぐる関連分野での研究成果を踏まえて、今後の研究の方向性を探る。

日 時：2021 年 2 月 20 日（土）10：00～17：00

会 場：オンライン（Zoom）

報告 1：細野 衛「関東地方から愛鷹山麓域の約 4.2 万年前以降の黒色帯の対比とその土壌学的性状」

報告 2：佐瀬 隆「関東地方から愛鷹山麓域の約 4.2 万年前以降の植生履歴と気候変動」

報告 3：三好元樹「愛鷹山麓の後期旧石器時代の層序・年代・環境」

報告 4：池谷信之「愛鷹山麓およびその周辺における黒色帯の分布と遺跡の形成」

報告 5：山本正伸「微粒炭および燃焼起源化合物を用いた過去の火災イベントの復元」

報告 6：山岡拓也「愛鷹山麓の後期旧石器時代前半期における狩猟行動の変遷」

報告 7：高倉 純「愛鷹山麓の BBV 層期での狩猟技術」

報告 8：池谷和信「人為的な植生改変と狩猟・採集との関わりについて－狩猟採集民の民族誌の事例から－」

討論 司会：山岡拓也・高倉 純

※ Zoom を使用したオンライン開催。事前予約制（90 名まで）。

参加を希望する方は＜第 35 回例会担当＞静岡大学 山岡拓也

（takuyayamaoka@gmail.com）までご連絡ください。